

# 感染制御部

## 1. スタッフ



部長 中田 浩智 (感染症  
専門医・ICD、准教授)  
副部長 岡本 真一郎 (感染症  
専門医・ICD、特任講  
師)  
副部長 藤本 陽子 (看護師長  
・感染管理認定看護師)

樋口 悠介 (助教)  
遠藤 慎也 (助教)  
西村 直 (寄付講座教員)  
手塚 美奈 (感染管理認定看護師)  
吉田 真由美 (感染管理認定看護師)  
尾田 一貴 (感染制御専門薬剤師)  
近藤 昭志 (抗菌化学療法認定薬剤師)  
山本 景一 (感染制御認定臨床微生物検査技師)  
林 秀幸 (感染制御認定臨床微生物検査技師)  
伊東 拓也 (感染対策担当事務)  
佐々木 純蓮 (感染対策担当事務)

## 2. 部の特徴

2016年から感染制御部に組織改編され、専門知識を有した多職種によるインフェクションコントロールチーム（ICT）として院内の感染制御に関する様々な業務を行っている。ICTの最大の目標は様々な感染症から患者・家族・職員を守ることであり、そのために耐性菌発生時の対応・環境ラウンド・サーベイランス、職員の教育といった種々の活動を行っている。2018年からは、抗菌薬適正使用を支援する活動 Antimicrobial Stewardship

(AS) を開始し、同年7月からは抗菌薬適正使用支援チーム(AST)を設置し、血液培養陽性症例や難治例のモニタリング、およびICTコンサルトを通じて感染症診療の適正化を推進している。2019年からはじまった新型コロナウィルス感染症の世界的な流行は未だに収束の見込みがないため、最新の知見をもとに感染対策を講じ院内への感染拡大を防ぐとともに新型コロナウィルス感染者の診療にも従事している。

## 3. 業務内容と実績

下記の10項目が主業務であり、2022年度の実施内容について簡単にまとめた。

(1) 医療関連感染対策に係る防止対策の基本方針に關すること。

院内 LAN サイボウズの感染制御部内に「新型コロナウィルス感染症対応マニュアル」など院内での取り決めを作成し、隨時更新している。

(2) 医療関連感染対策の教育の立案と実践に關すること。

全職員を対象とした院内感染対策研修会を年2回開催している。新型コロナウィルス感染症の流行は継続しているため、全職員を対象とする院内研修開催は中止し、e ラーニングによる受講とした。

1) 2022年9月 (医療系)

「病院職員として知っておくべきこと～新型コロナウィルス感染症～」

(吉田発表、e ラーニング 1,907名受講)

第1回 AST 研修会

「広域抗菌薬の使用量を減らしませんか。～タゾピペ、カルバペネム系薬、キノロン系薬～」

(尾田発表、e ラーニング 1,907名受講)

2) 2022年9月 (事務系)

「病院勤務中のコロナ対策」

(岩永発表、e ラーニング 425名受講)

3) 2022年12月 (医療系)

「新型コロナウィルス感染症とインフルエンザの twindemic に向けて」

(古田発表、e ラーニング 1,847名受講)

第2回 AST 研修会

「抗菌薬と耐性菌の歴史・現状に触れて、抗菌薬適正使用の意義を確認しましょう。」

(尾田発表、e ラーニング 1,847名受講)

4) 2022年12月 (事務系)

「コロナ第8波? 第9波? インフル同時流行? これから感染対策」

(藤本発表、e ラーニング 524名受講)

(3) インフェクションコントロールチーム (ICT) の業務に關すること。

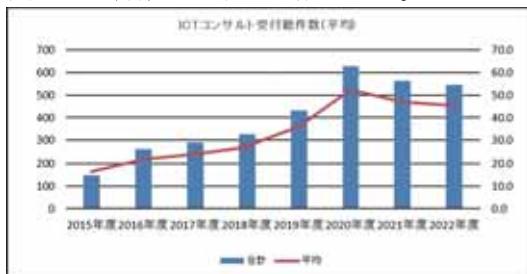
毎週木曜日に ICT 会議、毎月1回の定例感染リンクスタッフ会議の開催、病棟ラウンド、各種サーベイランス、感染リンクナースの育成などを実施している。ラウンドでは院内を毎週定期的にラウンドし、病棟等の清掃、整理整頓、手指衛生環境、注射作成環境、感染性廃棄物など、毎回観察ポイントを決めて評価し、現場にフィードバックしている。感染リンクナース育成研修は3密を避けて感染対策を行なながら実施した。コロナ禍で一部の研修を中止したため修了することができなかつた第17期感染リンクナースは第18期感染リンクナースと共に受講し修了することができた。

(4) 医療関連感染防止に係る実施状況調査及び見直しに關すること。

感染対策の実施状況の調査は、各種サーベイランスによって院内のベースラインの状況を把握する調査と、特定の感染症が増加した場合に行う臨時の調査に分けられる。サーベイランスに関しては、感染リンクナースを中心に手指衛生の実施状況調査やターゲットサーベイランス(SSI, CLABSI, ICU)を実施している。国内でインフルエンザと新型コロナウイルス感染症の同時流行が危惧されたが、職員のインフルエンザ発症は27名と少なかった。新型コロナウイルス感染症の流行拡大に伴い、院内で職員と患者に陽性者が発生した。24件の院内クラスターが発生し、20人を超える陽性者が発生したケースも5件あり、収束に一ヶ月近い日数を要するケースも見られた。

(5) 医療関連感染対策や感染症治療へのコンサルテーションに關すること。

感染対策の問い合わせは感染管理認定看護師が対応している。感染症治療は医師や薬剤師が対応し、年間546件と2020年以降は500件を超えるコンサルトを継続して受け付けているが、2021年度と比べ件数はわずかに減少した。



(6) 抗菌薬適正使用推進プログラム(ASP)の構築と運用に關すること。

2018年7月からASチーム(AST)を設置し、感染制御部の医師やAST専従薬剤師が中心となり活動している。

(7) 地域の他施設との医療関連感染対策に關すること。

感染対策向上加算に基づく加算1施設どうしの相互チェックを実施している。2022年度は、上天草総合病院を4職種(医師、看護師、臨床検査技師、薬剤師)で訪問し、書面調査及び院内ラウンドを行い、その結果をフィードバックした。一方、当院は江南病院からの訪問を受け、改善すべき点を指摘いただいた。また加算2取得の菊池郡市医師会立病院と加算3取得の九州記念病院の2施設と連携を継続して行っている。年4回のミーティング開催が施設基準として求められているが、2022

年度はオンラインによるカンファレンスを中心に行なった。熊本県・市医師会、熊本市保健所など外部からの参加もあった。その内1回は新型コロナウイルス感染の訓練として、連携2施設の他外来感染対策向上加算を取得している施設にも参加いただき、対面で個人防護具の着脱指導を行った。また、サイトビギットによる支援も再開し、連携2施設にそれぞれ2回の訪問を実施した。

(8) 職業感染対策に關すること。

職員の抗体価検査やワクチン接種を実施している。また針刺し等による血液・体液曝露時の対応も行っている。2022年度の実績は下記の通りである。

- ・新型コロナウイルス感染症ワクチン接種4回目  
1,896人 5回目 231人 ※外部委託業者含
- ・インフルエンザワクチン接種2,659人  
(実施率 96%) ※外部委託業者含
- ・B型肝炎、流行性4種ウイルス抗体価検査(対象者のみ) 562人(実施率 75%)
- ・流行性4種ウイルスワクチン接種(対象者のみ)  
510人(実施率 80%)
- ・B型肝炎ワクチン接種者(対象者のみ) 52人  
(実施率 76%)

(9) 抗菌薬適正使用支援チームの業務に關すること。

広域スペクトラム抗菌薬や抗MRSA薬を指定抗菌薬とし、届出あるいは許可制としている。指定抗菌薬は、使用状況の把握、治療経過のモニタリングを実施しており、昨年度は週平均28.9人で、前年度(30.9人)よりも減少していた。AST介入は714件(受け入れ件数516件、72.3%)であり、前年度AST介入(435件)よりも増加していた。血液培養検査件数は6,981件、陽性件数782件、陽性率は11.2%となっている。九州内の国公立大学附属病院と比較すると、検体数、1,000患者あたりの件数ともにまだ少ない。また、指定抗菌薬投与1,505件に対し、投与前の培養検査未実施が167件(11.1%)と、前年度(17.2%)と比較してやや改善していた。血液培養検査検体は毎年増加傾向にあるが、抗菌薬投与前の血液培養検査2セットを含め、感染臓器を意識した培養検査を実施し原因菌の推定を行う事ができるように啓発が必要だと感じている。

(10) その他の医療関連感染対策に關し必要な事項。

その他にも、耐性菌サーベイランス、抗菌薬使用サーベイランスなどを実施し、その動向を経年に観察し、実際の対策に活用している。